

○ E Mからの RMAN によるリカバリ操作

※ データベースに障害が発生している場合に、EMDC へログインを行うと、以下のようなデータベースのステータス情報画面が、まず表示されます。

<u>データベース・インスタンス： ZAIMU-DB</u>	
データベース・インスタンス	
ステータス：マウント	リカバリの実行 ←
詳細：インスタンスは起動されマウント状態にあります	
ホスト	

リカバリの実行 を ↓
クリックします。

RMAN によるリカバリ操作を行うには、

OS ユーザーのデータベース管理者で、ORACLE_DBA のグループに属するユーザーで「バッチジョブとしてログイン」権限を持たせたユーザーを指定します

Windows の場合： Administrator

Linux の場合： Oracle をインストールしたユーザー（通常 Oracle）

<u>リカバリの実行</u>	
<u>ホスト資格証明</u>	
OS ユーザー名とパスワード	
ユーザー名	Administrator
パスワード
続行	



<u>データベース・ログイン</u>	
ユーザー名	sys
パスワード
接続モード	sysdba ▾
ログイン	





リカバリの実行

Oracle 推奨のリカバリ

アドバイスとリカバリ

ユーザー指示のリカバリ

リカバリ

リカバリの有効範囲 データベース全体 | ▾

操作タイプ

- 現在の時間または、Point-in-Time へのリカバリ
- すべてのデータファイルのリストア
- 前にリストアされたデータファイルのリカバリ

ホスト証明書

ユーザー名 Administrator

パスワード



Oracle 推奨のリカバリを行う場合には、**アドバイスとリカバリ** をクリックする
ユーザー指示（ファイル or 表領域の明示指定）のリカバリを行う場合には、
リカバリ をクリックする

リカバリのためのバックアップファイルは、フラッシュバック・リカバリ・エリアに
配置する。

アドバイスとリカバリ をクリックした場合

障害の表示および管理

データベース・インスタンス

アドバイス

選択	障害の説明	影 響
<input checked="" type="checkbox"/>	障害 A が発生しました	オープン出来ません
<input checked="" type="checkbox"/>	障害 B が発生しました	DB が起動できません

リカバリする障害の選択をチェックして
アドバイス ボタンをクリックします



【RMAN バックアップ・カタログを使う場合の操作】

この画面にて、RMAN バックアップ・カタログがあるデータベースを指定する

障害の表示および管理

データベース・インスタンス

アドバイス

選択	障害の説明	影 響
<input checked="" type="checkbox"/>	障害 A が発生しました	オープン出来ません
<input checked="" type="checkbox"/>	障害 B が発生しました	DB が起動できません

☒ リカバリ・カタログを使用

リカバリ・カタログ・データベース 未指定

リカバリ・カタログ情報の編集

リカバリ・カタログ情報の編集

ホスト

ポート

SID

リカバリ・カタログのユーザー名

リカバリ・カタログのパスワード

OK

手動アクション

アドバイスの続行

手動アクションの詳細

行う操作の詳細説明が表示されます。

データベースに対し~~~~~

アドバイスの続行 ボタン
をクリックします



手動アクション

リカバリ・ジョブの発行

RMAN スクリプト

リカバリ・ジョブの発行 ボタンをクリックすると、リカバリ処理が実行され、
終了メッセージが、後に表示されます



リカバリ処理の成功

RECOVER が完了しました

データベースのオープン